

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2871101180		
法人名	医療法人それいゆ会		
事業所名	グループホーム「かわも」		
所在地	宝塚市川面3丁目24番9号		
自己評価作成日	平成27年2月16日	評価結果市町村受理日	2015年 5月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hyogo-kai.go.com/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104
訪問調査日	平成27年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所の理念として①安心の医療ケア②まごころの介護サービス③地域との結びつき④ご家族とのふれあいの4つを掲げています。母体が医療法人なので日々の受診、緊急時の対応等は安心してお任せ頂くことが出来ます。内部で働く介護スタッフの研修は、外部の認知症実践研修・リーダー研修等や自施設内研修も月1回開き、研修内容を全員に周知することを心がけています。また、昭和23年以来宝塚の地で地域医療・介護の充実に努め、その中で培った地域社会との連携を基盤に、このグループホームも地域に密着した普通の暮らしを目指しています。そして、駅から2～3分のとても便利なところにありますので、ご家族・ご友人がいつでも訪ねて頂けます。実際一緒に喫茶店、ショッピングにもお出かけになられており、生活を楽しんでおられます。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人である病院の開設以来の地域との結びつきが、大きな財産となっている。医療との連携は利用者、家族に安心を与えるとともに、職員のスキルアップの基礎ともなっている。医療ケアの研修はもちろん、接遇、権利擁護、看取り等、時代の要請を先取りした計画的な研修は素晴らしい。一方、津軽三味線、日本舞踊、囲碁、遊びの教室、フラダンスといった多彩なボランティアの協力も得て活気ある事業所となっている。職業安定所や専門学校からの介護実習も積極的に受け入れ、職員の意識向上や、利用者にとっても刺激ある日常の提供の機会となっている。実習後、就職を希望し、職員として採用されたケースもあり、事業所にとっては大きな成果といえる。今後は、防災面での地域連携をはかり、非常時においても地域福祉の拠点としての働きを大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に基づいてグループホームの理念があり、日々安心の介護を行い、地域の行事に参加し交流を深めている。理念については、新入職員・実習生たちに初日のミーティングにて説明し、各職員には月1回のカンファレンスで確認しあっている。	介護実習生を1年を通して定期的に受け入れている。施設ガイダンス時に理念を説明する事により、指導職員は常に理念を共有し、実践する機会としている。施設内の掲示はもとより、「入居のご案内」にも明示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のふれあいカフェ、演奏会、それいゆ会のお祭り等にお互いに参加し合って交流している。近隣の保育園から園児が来訪し、一緒に歌を唄って親睦を図っている。	近くの公民館のふれあいカフェに参加したり、事業所での津軽三味線の演奏会に地域の参加を得ている。事業所の祭りも10周年記念と合わせ盛大に行った。トライやるウィーク、昔遊びや囲碁などのボランティアの協力も得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センター主催の認知症サポーター事業に協力し、近所で迷った認知症の方がおられたら、診療所・通所・グループホームにて保護して連絡している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議にて、GHかわもの認知症に関する取り組み報告や家族、介護保険課職員、知見者からの多数の意見を頂き今後の運営に活かしている	自治会長、地域包括、利用者、介護相談員も出席し、計画性をもって開催している。職員が、壁飾り以外での季節感創出に苦慮していることを相談したところ、浴衣の着用のアイデアをもらった。実施した結果、利用者から大好評だった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には毎回出席を頂き、担当者に市の最新情報や他の施設の良い取り組み状況等お聞きし、協力を頂いている。	管理者は介護保険の認定審査員をしている。市から入所打診の問い合わせがあったり、事業所からは、介護保険の代行申請や事故報告などで窓口を訪ねるなど、協力関係は築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を自施設内研修にて理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠については、施設の立地上、JRの踏切や交通量の多い道路があり、家族に了解を頂いている。外出は入居者の希望ですぐ出れるようにしている。	施錠による閉塞感除去に努め、ドライブや買い物外出等に職員の方から誘うようにしている。合同で行事をする機会を設け、各フロア間の行き来を心がけている。隣接する法人の病院へのリハビリや受診などの外出もしている。夜間、センサーマットを2名使用している。	センサーマットも身体拘束との認識を持っているが、定期的な状況把握を記録すると共に、常に使用の可否についての検討を期待したい。
7	(6)	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は職員の疲労やストレスに気を配り、利用者のケアに何か影響が出ていないか把握する。虐待のついで勉強会は、自施設内研修で必ずおこなっている。	ケアを重視するあまりに無理強いしないよう注意している。管理者は個人面談や随時の声かけで職員の相談にのっている。カンファレンスで利用者の状況を共有し、職員は互いに助け合うことにより不適切なかかわりを防止している。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中に自立支援サービスを使用されている方もあり、入所時に家族と成年後見についてお話をすることになっている。包括支援センター職員による権利擁護の研修会を年1回行っている。	司法書士による成年後見制度利用者が2名と、日常生活自立支援事業利用者が1名いる。家族会で資料を配布し、情報提供している。毎年積極的に研修を実施しており、今年は、高齢者の消費者トラブル等も含めて研修を行った。	成年後見人の司法書士などの協力も得て、事例検討の場を持ち、具体的な勉強会を試みられてはいかがか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に家族には、契約・解約についての諸注意を丁寧に話し、納得して頂いている。契約前に書類をお渡しして、疑問な点は必ず質問をしてもらっている。	見学や利用開始時のお試し利用も勤めている。法人母体病院の主治医へのかかりつけ医変更や、歯科受診の可否、面会についての質問が出るが丁寧に説明している。契約書は一旦持ち帰ってもらい、熟読の上の契約としている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族が運営推進会議、家族会、訪問の機会に介護に対する意見や思いを伝えて下さったことを、運営に活かしている。	今年は、特に運営推進会議や家族会での意見は聞かれなかった。職員は担当制を取っており、日頃の面会時等の聞き取りで、本人、家族の思いを吸い上げ、月1回のカンファレンスで意見として取り上げ、毎日の支援に活かしている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、事業所内会議にて、現場職員の意見・要望等を聞く機会を設け、職員の働く意欲の向上やホームの質の確保に繋げている。管理者は、各意見を法人代表者に伝え、より良い運営に反映している。	職員の提案で、車いす利用者が独歩に至った事例があった。利用者の状態観察の中で、ソファの下にマットを敷き、床面に利用者を着座させたところ、次第にソファにつかまり立ちし、立ち上がれるようになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	合同の親睦会やGHかわもの集まりにて職員たちの要望を聞いて、なるべく働きやすい職場環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修は、職員に優先順位により順番に受けてもらっている。研修報告は、月1回の事業所会議にて行っている。事業所内研修は、各職員講師になりお互い勉強しあっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宝塚市介護事業者協会の施設部会で同業者との交流があり、意見交換や勉強会をして、サービスの向上に取り組んでいる		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の言葉に耳を傾け、まず何を希望されるのか、心配事は何かあるのか等をお聞きして信頼関係を結び、安心して過ごせるように努めている。日々の会話に寄り添うことでより良い関係を構築している。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の相談の段階より、家族の希望、意見、困り事には耳を傾けより良い関係が作れるように勤めている。管理者・職員は、来訪時に必ず家族に声をかけるようにしている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始の時点で、本人と家族が一番望んでいることを出来る限り支援することに努めている。初期には、言えなかったり、少し時間が経ってからの要望もあるので、焦らず待つこともしている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人がこれまで行ってこられた家での仕事、役割を大切にして、できることはお願いして、共に過ごす仲間同士としての関係を築いている。心が通う介護を目指している。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族と本人の関わりを大切にして、家族と協同して本人を見守り、支えていく関係を築いている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が暮らして来た地域や友人とのふれあいをできるだけ継続し、関係がなくならないよう支援に努めている。近隣の方がボランティアに訪れる時に友人と一緒に連れられることも歓迎している。	クリスチャンの仲間が訪ねてきたり、行きつけの饅頭屋に買いに行ったりする人もいる。墓参りの希望に送迎支援をすることもある。家族の協力で大阪まで出かけ同僚と会うなど、馴染みの関係継続の支援を心がけている。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間のうまが合うか合わないか把握し、つまはじきのない暖かい関係が生まれるように勤めている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、随時相談には乗り、他のサービスの紹介等させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の暮らし方は、最初に本人、家族から聞き取り、希望に沿うように勤めている。その後は、日々の生活の中での会話や本人の様子を見て、こちらで察したことを職員で共有して行っている。	本人からの意向把握が難しい時は、幾つかの選択肢を提示して打診する事もある。又、日々の観察から職員がくみ取るようにもしている。家族の思いと本人の思いが異なる時は、家族とよく話し合い、本人の意向を大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家での過ごし方、以前のサービス利用の内容等これまでの暮らしぶりをなるべく多く情報収集して、こちらでのサービスの参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者によっては、ご自分の思いや希望などが伝えられない場合もあるので、利用者をよく知っている人たちに本人に成り代って考えて頂く様に努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人には意向や、意見を一番多くもらい、家族・友人にも気づき、アイデアを頂き、より良い介護計画を作成している。入所が長くなると、家族より職員のほうが入居者のことをよく分かっていることもあるので、家族の承諾のもと変化に応じて介護計画を作成して	アセスメントにより、本人の思いを大切に、家族や医療関係者のアドバイスや日頃の職員の観察などを参考に、介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月ごとに行い、計画の見直しは随時行っているが、緊急時はカンファレンスを行い、変更するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個人ファイルに日々の様子、気づきは記入し、アセスメント、モニタリングを皆で共有しながら介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人暮らしであったため、お墓の掃除、お花の供えを職員が支えるサービスに取り組んでいる。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	囲碁のボランティアとの対局や製作作品をバザーへ出品したり、教会への参加等地域資源を大いに活用している		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に、かかりつけ医をお聞きし、今までの主治医をそのまま継続されている。主治医がおられない方は、納得の上でこちらの協力病院、診療所にかかられている。また、認知が進んだ場合、精神科受診の場合は管理者又わユニットリーダーが家族と一緒に付き添っている。	これまでのかかりつけ医の継続を優先している。意向により協力医療機関の受診又は往診の利用も可能で、利用者個々の疾患等に応じた担当主治医となっている。他科受診についても、スムーズな対応が図られている。家族とは常に情報交換し、利用者の状態把握に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	診療所の看護職と常に情報交換できている。吸引器の使い方など必要に応じて研修会をしてもらっている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同じ法人内の協力病院、診療所なので、入退院の情報交換や相談は常に行っている。他の救急病院の場合で家族がいない方は、管理者・職員が付き添い、退院相談等を行っている。	協力病院との密な連携が確保され、状態悪化を防ぐ早期での入院治療、又は早期退院への体制が柔軟に行われている。入院時は、利用者の疾患や認知症状に応じ、家族等の意向も踏まえ、安心できる治療体制となっている。充実した受け入れ体制により早期退院につなげている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化の場合、終末期の対応について話し合いを行い、それぞれの希望を共有している。家族会の議題にも出して、緊急の場合に備えている。	契約時に、事業所の方針を説明し、理解を得ている。入院等状態悪化があった場合はその都度、家族と話し合い、意向を確認している。終末期に向かう早めの段階で、主治医等を交え、今後の状況、対応について相談するようにしている。家族の安心を尊重している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に数回事業所内にて、急変、事故発生時に対する訓練を行っている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の火災訓練、事業所内での避難訓練等を行っている。災害対策の事業所内研修開催、他での災害研修参加等を運営推進会議にて発表している。そして地域での協力支援について話し合いをしている。	定期的な火災避難訓練を併設施設合同で行っている。火元を想定し、利用者もベランダに避難する等共に避難経路を確認している。運営推進会議でも、毎回報告し、現状及び課題について検討し、自治会長等地域の協力も要請している。次回は夜間想定の実施を検討している。	

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は、常に人生の先輩であり師匠であるので、言葉使い、態度には職員全員が気をつけている。職員同士で気になる言葉・態度等あれば、話し合いの機会を作り、改善している。	高齢者を敬う姿勢を基本とし、職員の接遇面における態度や言葉づかいは、徹底するようにしている。高齢者に対する不適切な言葉かけやお世話するという関わりにならないよう、管理者は常に注意している。職員は、共に寄り添い関わることを大事にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃行っていることは、まずいかがいたしましょうかとか？どうしましょうか？と何でも本人の希望を言える場を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望、意見、状態があるので、できるだけお聞きして、利用者本位にして頂けるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな洋服、帽子をできるだけ自分で選んで頂いている。選ばれた洋服には、必ず職員がお声がけするようにしている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しみにしておられる方が多いので、配膳のお手伝い等お出来になる方はお手伝いしてもらって支援をしている。お料理の献立名を目立つところに貼り、会話の話題にしている。	建物内の厨房で調理し、事業所で盛り付け、配膳を利用者も一緒に行っている。利用者個々の要望をできるだけ反映し、調理法や見た目も工夫し、美味しく食べてもらえるようにしている。手作り調理やおやつ、時には個別に外食に行くなど、楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の協力の基、一人ひとりの栄養量が不足しないように支援している。管理栄養士が、お昼どき食べている入居者に感想を聞いて次の料理にいかしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは行っている。毎週来られる訪問歯科の先生に相談もしている。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンは、一人ひとり異なり、時間誘導の方、ご自分で行かれる方、個別ケアで対応している。日中と夜間と異なる場合が多いので、職員同士情報を共有している。	利用者個々の排泄パターンを把握し、必要な人にはその日の体調や行動に沿い、声かけ、誘導している。基本、トイレでの排泄とし、昼間はおむつ使用はない。夜間は、安心のためポータブルトイレを置いている人もいる。目標を自宅復帰とし、リハビリとして取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘には、管理栄養士に相談し、野菜をできるだけ食べてもらうことや、体を動かすことや主治医にも相談して個々に対応している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご自分の希望や気分があり、一番風呂が良い方、あとでゆっくり入りたい方、それぞれに応じて入浴を楽しむ支援をしている。	最低でも週2回は入浴してもらうようにしているが、無理強いほしないようにしている。利用者の希望やその時の気分に応じて個々の習慣に添い、入浴を勧めている。好みの入浴剤、職員との会話を楽しんでいる人もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝が習慣の方、うたた寝が気持ちの良い方、夜更かし気味の方それぞれに応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最低限飲んで頂きたい水分量以外は、好きなように飲めるようにポットに入れたり、コップに入れたり希望に沿っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	囲碁、手芸、散歩、家事等その方の希望、思いをお聞きして支援に努めている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は、なるべく戸外に出かけられるよう努めている。お花見、紅葉がりは年間の行事として出かけるように支援している。2～3人での外出は近所の公園、スーパー等個別に対応している。	駅が近く、地の利が便利なことから、近隣の公園や商店等、好みの買物やウインドショッピングに出かけている。近隣のホテルのラウンジで、お茶とケーキを楽しむ車いす利用の人もいる。家族との外食や外出も多い。花火の季節は多くの人でにぎわい、利用者も楽しみにしている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行った時は、ご自分の財布からお金を出して使ってもらう支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、家族・親戚からかかってくるが多く、手紙は今の入居者の方々はあまり書かれない。くもん学習療法など文字を書く機会は多く取り入れるようにしている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、利用者がよく集う場所となっている。家具の配置は、時々変えて居心地が良い場所にする工夫をしている。ダイルームの机・椅子の配置は新入居の方がおられたら、必ず全職員でよく話し合い模様替えしている。	オープンキッチンを備えたりリビングは、窓も広く明るい。利用者個々に居心地の良い空間となるよう、テーブルやソファ等配置には、利用者の状況に併せ配慮している。利用者同士おしゃべりを楽しんだり、個々にゆっくり過ごしている。ガラス越しのベランダの花が季節を感じさせてくれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少し離れた場所にくつろげるところを工夫しているのと、ご自分でくつろげる場所を作られた場合はそのまま様子を見ている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを配置し、居心地の良い居室にしてもらう工夫をしている。入居時に他の方の部屋を参考に本人と家族が話をし、少しずつ居心地の良いお部屋にしてもらっている。	洗面台、ベッドが常設されている。絨毯を敷いたり、整理筆筒やおしゃれなテーブルとチェアなど、馴染みの家具や使い慣れた座布団や時計等が置かれている。昔の写真や趣味の飾りがそれぞれにレイアウトされ、その人の暮らしぶりがうかがわれる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の移動や、ダイルームでの移動がご自分で行える、そしてできることはなるべく一人で頂く工夫をして危なくないように見守りをする支援をしている。		